

# 高野周一 学位論文審査要旨

主 査 磯 本 一  
副主査 辻 谷 俊 一  
同 齊 藤 博 昭

## 主論文

An increased number of PD-1+ and Tim-3+ CD8+ T cells is involved in immune evasion in gastric cancer

(胃癌の免疫逃避にはPD-1およびTim-3発現陽性CD8T細胞の増加が関連している)

(著者：高野周一、齊藤博昭、池口正英)

平成28年 Surgery Today DOI:10.1007/s00595-016-1305-9

## 参考論文

### 1. Familial intussusception

(家族性腸重積症)

(著者：大塩猛人、緒方宏美、高野周一、石橋広樹)

平成19年 Journal of Pediatric Surgery 42巻 1509頁～1514頁

### 2. 超音波検査による小児総胆管径標準値の予測

(著者：高野周一、大塩猛人、石橋広樹、曾我美朋子)

平成20年 小児外科 40巻 839頁～842頁

### 3. 急性腹症として発症した腸間膜脂肪芽腫の1例

(著者：高野周一、高屋誠吾、畑田智子、清水法男)

平成23年 日本小児外科学会雑誌 47巻 1043頁～1047頁

## 審査結果の要旨

本研究は胃癌患者の末梢血および摘出された胃癌組織を対象として、フローサイトメーターを用いてCD8Tリンパ球における免疫チェックポイント分子PD-1およびTim-3発現を検討したものである。その結果、胃癌患者では非担癌患者と比較して末梢血や癌組織内のPD-1やTim-3発現陽性CD8Tリンパ球が増加していることが示された。またPD-1とTim-3発現との間に正の相関関係が示された。さらに、これらの免疫チェックポイント分子発現が、CD8Tリンパ球の機能低下と関連していることも示された。本論文の内容は、今後の胃癌における免疫チェックポイント分子を標的とした新たな免疫療法の可能性を示唆するものであり、癌免疫療法の発展に寄与するものである。また、学術水準を高める内容であると認める。